

【大学・キャリアセンターアンケート】緊急事態宣言解除後も、

「就活相談」はオンライン対応が86.9%。オンラインでの相談は、

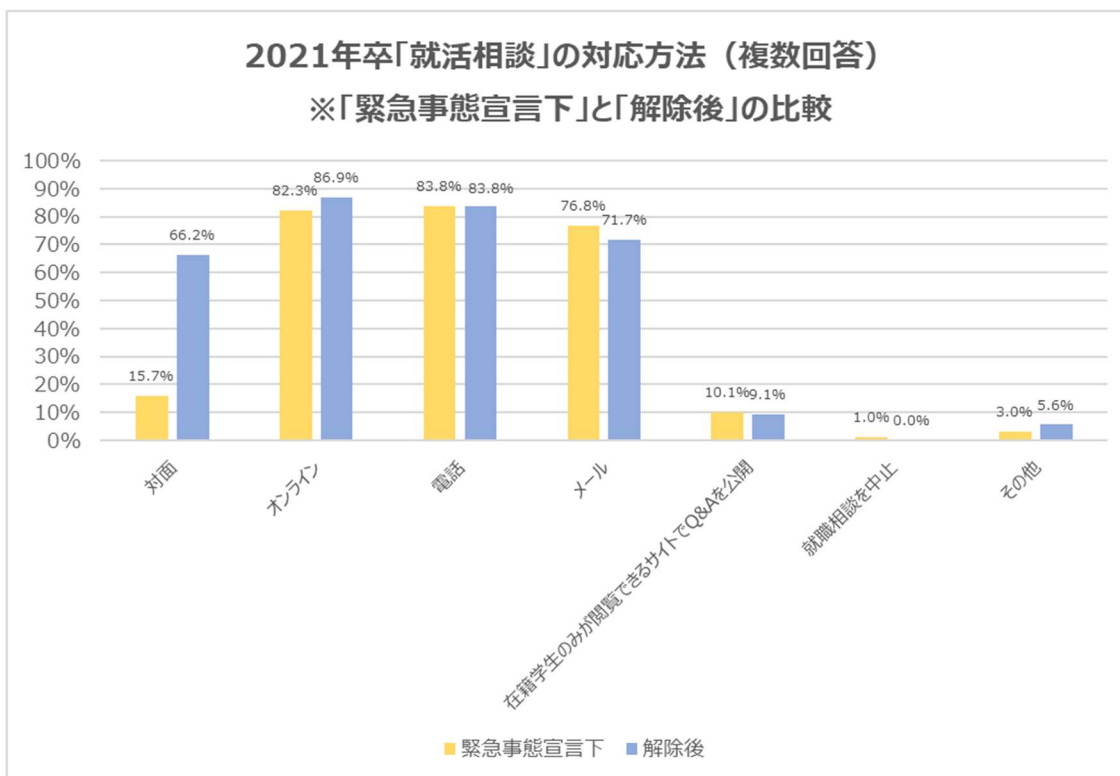
相談内容が明確な学生が大半。「何を相談していいかわからない学生」の支援に課題。

株式会社学情は、新型コロナウイルスの感染拡大や入構禁止、授業のオンライン化を受け、大学キャリアセンターの「就職支援」に関するアンケートを実施しました。緊急事態宣言下では、多くの大学が入構禁止になり、2021年卒の「就活相談」に「対面」で対応していた大学は、15.7%にとどまります。緊急事態宣言解除後は、「対面」で実施する大学が66.2%まで増加したものの、「オンライン」での対応も86.9%に迫り、「対面」と「オンライン」を併用する大学が多いことが分かります。キャリアセンターの担当者からは、「オンラインでの実施では「予約」が必要で、予約するのは相談内容が明確な学生ばかり。本当に支援が必要な、何を相談していいかわからない学生をフォローできない」といった不安の声が寄せられました。

【TOPICS】

- (1) 緊急事態宣言解除後も「オンライン」での「就活相談」を実施する大学が86.9%
- (2) 学内合同企業セミナーも「オンライン化」の動き。夏以降の実施を追加検討する大学が37.4%
- (3) 2022年卒向けの「就職ガイダンス」は「オンライン」対応が大半。今後は対面を模索する動きも

(1) 緊急事態宣言解除後も「オンライン」での「就活相談」を実施する大学が86.9%

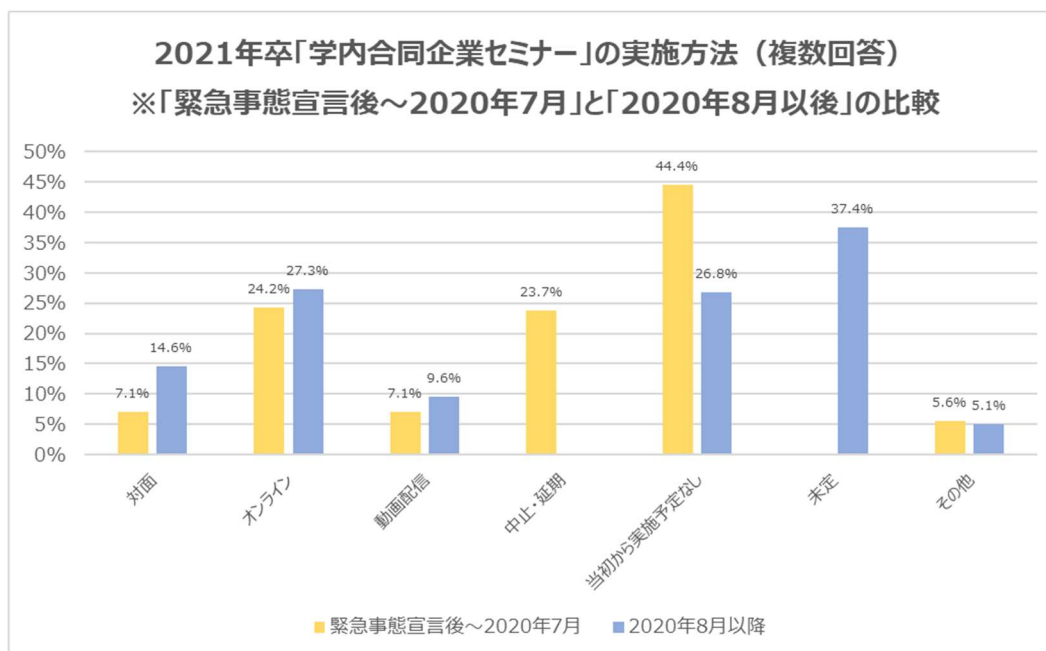


緊急事態宣言下では、多くの大学が入構禁止になり、2021年卒向けの「就活相談」を「対面」で対応していた大学は、15.7%にとどまります。緊急事態宣言解除後は、「対面」で実施する大学が66.2%まで増加したも

の、「オンライン」での対応も 86.9%に迫り、「対面」と「オンライン」を併用する大学が多いことが分かります。通信環境や、オンラインで実施するツールの整備が進んだことにより、「オンライン」での支援を実施する大学は、緊急事態宣言下より増加しています。

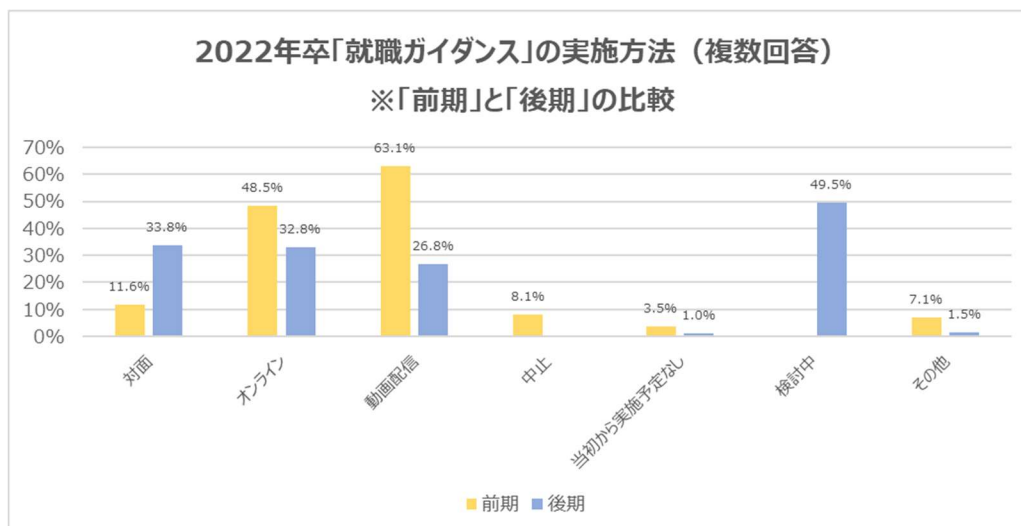
キャリアセンターの担当者からは、「オンラインでの実施では「予約」が必要で、予約するのは相談内容が明確な学生ばかり。本当に支援が必要な、何を相談していいかわからない学生をフォローできない」「これまでのように、ふらっと来室した学生を、立ち話などでフォローすることは難しい」といった不安の声が寄せられました。

(2) 学内合同企業セミナーも「オンライン化」の動き。夏以降の実施を追加検討する大学が 37.4%



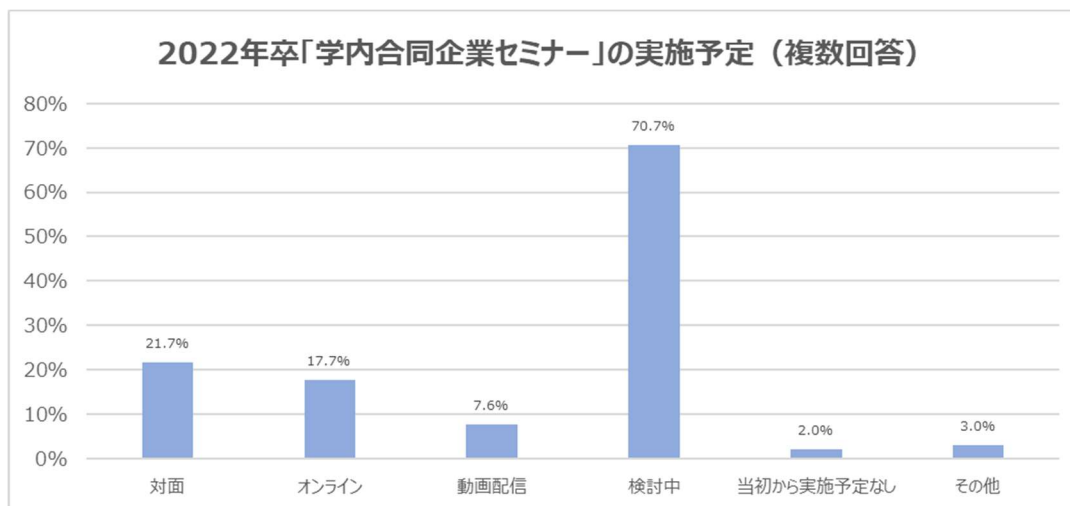
緊急事態宣言後～2020年7月の期間に予定していた「学内合同企業セミナー」に関して、「中止・延期」したとする大学は 23.7%に上りました。実施方法は「オンライン」24.2%、「動画配信」7.1%となっており、「対面」で実施した大学は 7.1%にとどまりました。また昨年までは、夏以降に学内合同企業セミナーを開催する大学は少数でしたが、37.4%の大学は、8月以降の開催を「未定」としており、夏以降も開催を模索する大学が多いことが分かります。「コロナ禍で内々定状況が悪化しているため、学生に企業との接点を持たせたい」という声が挙がっています。

(3) 2022年卒向けの「就職ガイダンス」は「オンライン」対応が大半。今後は対面を模索する動きも



2022年卒向けの「就職ガイダンス」も、「対面以外」での実施が大半となっています。前期（夏休み前）までの就職ガイダンスは、「動画配信」が63.1%で最多となり、次いで「オンライン」48.5%となりました。後期（秋以降）に関しては、49.5%の大学が「検討中」としています。実施方法の回答があった大学は「対面」が最多で33.8%、次いで「オンライン」32.8%となっており、「対面」での実施を模索し始めている様子も見られました。

2022年卒向けの学内合同企業セミナーについては、70.7%の大学が「検討中」としています。「キャリアセンターとしては、学生が企業から直接話を聞ける機会を設けたい」という声と同時に、「授業を含めて大学の方針次第」という声も多く寄せられました。



■調査概要

- ・調査対象：全国の大学キャリアセンターの就職指導担当者
- ・調査方法：Web上でのアンケート
- ・調査期間：2020年7月10日～7月21日
- ・有効回答数：198件